



群馬県支部

支部長 小見 正義

第 12 回群馬県支部総会を開きました

令和 6 年 6 月 16 日（日）前橋市新前橋町にある群馬県社会福祉総合センターで、第 12 回群馬県支部総会を開催しました。コロナ禍が明け 4 年ぶりの通常総会となりました。

来賓として埼玉県支部支部長の川上茂様の御臨席を賜り、また支部顧問のソレイユあさひクリニック院長新島和先生、群馬県立心臓血管センター院長内藤滋人先生、群馬大学大学院医学系研究科 教授 医学博士 石井秀樹先生にも、ご多忙の中ご出席いただき 30 名の参加者になりました。



講演会は、群馬大学大学院医学系研究科 内科学講座 循環器内科学分野 教授 医学博士 石井秀樹先生の『心不全パンデミックを考えるー群馬県の循環器診療は？ー』です。

群馬県内では心不全が増加傾向の理由（塩分の取り過ぎ・運動不足等）や医師不足の内情など大変役立つ内容を楽しく分かりやすくお話しいただきました。お

陰様で皆様に大好評の講演会となりました。

顧問の先生方との質疑応答は、心不全の予防法や電磁波について、またペースメーカーの電池交換について、心配事や不安な事を先生方にお答えいただきました。

総会行事は滞りなく行われましたが、役員の人手不足により申し訳なく思いましたが石井秀樹先生にマイクのやり取りを任せてしまいました。

相変わらずの役員不足で大変ですが、より一層『感謝・報恩・奉仕』の心で邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



日本心臓ペースメーカーの会県支部（小見正義支部長）は16日、前橋市の県社会福祉総合センターで総会を開き、同支部顧問で群馬大大学院医学系研究科の石井秀樹教授が心臓の働きが悪くなる心不全をテーマに講演した。会員ら22人が参加し、対策への知識を深めた。

石井教授は心不全の患者が増えていることを背景に、心不全の兆

心臓の動きについて説明する石井教授（左）

心不全対策 知識深める

ペースメーカー友の会県支部総会

講演をきつかけに備えてほしい」と話した。同支部はペースメーカーを利用する患者や医療関係者が集まり2012年に設立された。専門家の指導の下で学習会を開くなどし、全はいつ起こるか分からないから活動の幅を広げたい。（丸山 寛）

候を説明。食事や喫煙などに気を付ける健康管理の大切さを説き、「早期の発見と対応が重要な。早速実践してもらいたい」と呼びかけた。小見支部長は「心不全はいつ起こるか分からないから活動の幅を広げたい。（丸山 寛）

2024年6月17日（月）
上毛新聞 社会面の記事